

やましんかわら版は
山新販売店と読者を結ぶ
ミニコミ紙です

やましんかわら版



発行部数 9万7,000部

毎月5日発行

新聞休刊日のため12月11日(月)付朝刊はお休みさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

かわら版編集部

〒990-2323 山形市桜田東二丁目3-8-7
《ホームページ》<http://www.yamashinhanbai.jp/>
《メール》kawaraban@yamashinhanbai.jp
読者お問い合わせ窓口
TEL.023-635-6111 (山新販売内)

今月の
いちばん
情報!!

お寺に集い、遊ぶ。 ボードゲームの 魅力に迫る。



『お寺でボードゲーム』の仕掛け人、小野卓也住職。本業の他、ボードゲームジャーナリストとして本の執筆や翻訳を手掛けている。また、世界のボードゲーム情報サイト「Table Games in the World」を運営。

約1年前から始まった、ボードゲームを使った観光プラン『お寺でボードゲーム』。このユニークなプランを仕掛けたのは、ボードゲームジャーナリストとしても広く知られる、長井市は洞松寺の小野卓也住職。今月は知っていそうで知らないボードゲームの世界と、プランの反響について住職にお話いただきます。

Q、なぜ『お寺でボードゲーム』を企画したのですか。

▶お寺というものは、古くは地域の住民が寄り合う場であり、今でいう公民館的な役割も担っていた場所ですが、最近はお寺に足を運ぶ人がめっきり少なくなりました。住職として、お寺の未来に危機感を抱いていた私は、宿泊というかたちで本堂を利用してもらおうと観光プランを企画し、その目玉としてボードゲームを掲げることにしたのです。

ストーリー全てがプログラムされたテレビゲームとは異なり、ボードゲームにはアナログだからこその複雑な要素、面白みがあります。また、複数人で一緒に遊ぶものであり、そこには会話や心理戦が生まれる。その楽しさを知ってもらえれば、

多くの方にお寺を利用していただけるのではないだろうか。遠方からの集客ができれば、地域内に交流が生まれ経済効果が望めるのではないだろうか。私は、そう考えたのです。

Q、プランを始めて約1年。どんな反響が?

▶参加者は毎回5人ほどですが、ボードゲームは嗜好性が高いものですから、マニアの方が首都圏からも距離に関係なく来てくださいます。そして面白いことに、夜な夜な地元の方が自然とお寺に集まり、いつの間にか大勢でボードゲームを囲むのが日常となってきています。その本堂がにぎわう光景を見るたびに、昔のお寺はこうだったのかな、この企画を立てて良かったなとうれしい気持ちになります。

また、長井市ではボードゲームを愛好する方がここ1年でぐんと増えたようです。ゲームを通して子どもとの会話が生まれるという声や、お酒を飲みながら大人同士で楽しんでいるという声が聞こえてきます。地域的な機運が高まり、週末の夜だけですが、ボードゲームカフェが長井市に開店するなど、ちょっとしたブームが訪れているのかも。地域おこしのモデルにしたいと、他地域から視察にいらっしゃる方もいるのですよ。

Q、世界のボードゲーム事情は。

▶ボードゲームは世界各国に存在していますが、その普及率はドイツがダントツに高く、日常的な娯楽として人々の暮らしに溶け込んでいます。また、その周辺国や米国でも、ここ10年でだいぶ定着してきているようです。比べてアジア諸国では、まだあまり認知度が上がっていませんが、日本に限っては、近年爆発的に愛好家が増えているようです。

ある方の言葉で「世界のあらゆるものがボードゲームになる」というものがあります。ボードゲームは世の中のことを題材にして作られているもの。その意味では、私たちは遊びながらその世界をシミュレーションしている。最近凄惨なニュースを目にすることが多いですが、ボードゲームを通して多様性を学び、人間同士がさらに理解し合えるようになれば世界が少し穏やかになるのではないのでしょうか。私としてはボードゲームが、人の役に立ってくれば大変うれしく思うのです。

洞松寺 小野卓也住職

住所/長井市草岡1367

電話/0238-84-2390

<http://www.tgiw.info/weblog>



左/書齋には世界各国のボードゲームが、それぞれの国のそれぞれの文化を、遊びを通して垣間見ることができるといふ。

右/仏になるまでの道のりを示す、江戸時代の『浄土双六』の復刻版。1枚の紙に描かれた世界観は、仏教の曼荼羅(まんだら)にも似た存在感がある。

